

「プレゼンテーション演習」の実践と報告

富士原伸弘^{*1}

Reported practice of "presentation practice"

Nobuhiro FUJIHARA

Abstract

In Kagawa National College campus Takuma language arts, for the purpose of communication capacity of students, I went to class called "presentation practice" from the fiscal year ended March 31, 2004. The "presentation practice" is a class carry out the presentation and data creation to students by using Microsoft's PowerPoint, teachers would grade the results. This paper is intended to report any problems about what is occurring how implemented.

KEYWORDS : presentation, seminar, Japanese

1. はじめに

香川高等専門学校詫間キャンパス（旧詫間電波工業高等専門学校）国語科では、学生達のコミュニケーション能力向上を目的として、平成15年度から「プレゼンテーション演習」という授業を行ってきた。「プレゼンテーション演習」とは、マイクロソフト社のパワーポイントを使用して学生たちにデータ作成及び発表を行わせ、その結果を教員が採点するという授業である。

香川高専詫間キャンパスは、弱電系の技術者を養成することが学校の使命であり、情報関係の技術者を目指す学生が入学してきている。そのため、パソコンを使っのデータ作成や発表に対して抵抗感のない学生達が多いこと、並びに、データ作成のための十分な設備がそろっていることが、このような演習の実施を可能にしたといえよう。

卒業研究の発表が高等専門学校に所属する学生達のプレゼンテーションの到達点とするならば、授業「プレゼンテーション演習」の内容は、理科系の専門的なものが望ましいであろう。しかしながら、あくまでも「国語」の授業であるため、専門的な内容のプレゼンテーションは実施及び評価が困難である。プレゼンテーションの基礎的練習をさせつつ、

同時に国語科で身につけさせるべきコミュニケーション能力の育成を図る。

本論文は、このような「プレゼンテーション」と「国語の教育目標」を両立させるために取り組んできた10年間（平成24年度まで）の活動について、どのように実施しどのような問題が発生しているのかについて報告するものである。

2. 実践報告

2. 1 概要

平成15年から24年までの10年間、どのように実施してきたのかを、以下に実施年度・講座名・学年・担当者の順でまとめた。

平成15年	国語Ⅰ（1年）	森
平成16年	国語Ⅰ（1年）	富士原
	国語Ⅱ（2年）	森
平成17年	国語Ⅰ（1年）	森
	国語Ⅱ（2年）	富士原
平成18年	国語Ⅰ（1年）	富士原
	国語Ⅱ（2年）	森
平成19年	国語Ⅰ（1年）	森
	国語Ⅱ（2年）	富士原

*1 香川高等専門学校 詫間キャンパス 一般教育科

平成20年	国語Ⅰ（1年）富士原
	国語Ⅱ（2年）森
平成21年	国語Ⅰ（1年）森
	国語Ⅱ（2年）富士原
平成22年	国語Ⅰ（1年）富士原
	国語Ⅱ（2年）森
平成23年	国語Ⅰ（1年）富士原
	国語Ⅱ（2年）東城
平成24年	国語Ⅰ（1年）富士原
	国語Ⅱ（2年）東城

文部科学省の国語学習指導要領に「コミュニケーション能力」の強化が盛り込まれたことを受けて、平成15年度に、国語科教員森・富士原のうち、森が1年生で「プレゼンテーション演習」を試験的に実施した。その成果を踏まえて、16年度から本格始動し、専任教員が授業を担当している国語Ⅰ（1年生）・国語Ⅱ（2年生）において実施することとなった。なお、平成23年度から担当教員が、森教員から東城教員に交代している。

本稿においては、平成16年度以降の富士原が担当した内容について論じることとする。

2. 2 実施計画例

平成17年度の国語Ⅱ（2年）における実施計画は以下のようなものである。

- 6月初旬 前期中間試験終了
メインテーマ予告：技術について
班分け・個別テーマの検討
- 7月初旬 個別テーマの提出
レジメ（資料）作成及び作業開始
- 9月初旬 パワーポイントデータ提出
レジメ（資料）提出
- 9月中旬 プレゼンテーション発表
（発表時間5分、質問時間3分）

発表はクラスをいくつかの班（4～8人）に分け、班ごとに行わせている。香川高専の定める学習・教育到達目標には、「日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる」の項目があり、その細目に「役割を分担し、相互に協力して作業できる能力」が設定されている。そのため、国語「プレゼンテーション演習」では、個人ではなく班により発表とし、1年生では司会を教員が担当して班員全員で発表させ、2年生では司会進行を含めて学生達に各種役割分担（司会・発表・計時・質問）を行わせ、年次進行に合わせて段階的に到達目標が高くなるようにしてあ

る。班の分け方は学生達の任意としている。

担当教員により実施時期は異なるが、筆者の場合はほぼ毎年この日程で実施している。香川高専では9月の前期期末試験後1週間（後期開始前）が答案返却日とされており、国語週3時間の授業時間中、答案返却1時間、プレゼンテーション発表2時間という時間配分が可能となるからである。また、プレゼンデータ作成を夏休みの宿題とすることができるのもこの時期を選んだ理由である。

時間配分は6月の班分け・テーマ決めに1時間、1年生で授業時間に余裕があれば、過去のプレゼンデータ紹介に1時間、発表本番で2時間の合計3時間（又は4時間）使っている。授業中にパワーポイント作成の実習をさせることも考えたが、教科書教材進行との兼ね合いや、パワーポイントの指導ができるほど教員側がソフトを熟知しているかという事から、授業内実習は見送っている。

評価方法については、教員の採点（データとレジメの出来具合・発表内容・発表態度を総合的に判断する。）としている。学生達に相互採点させるという方法もあるが、クラス内の発言力やパフォーマンスによって得点が大きく偏る可能性があるため、筆者は採用していない。

2. 3 具体例の紹介 テーマの設定

「プレゼンテーション演習」を実施する上での、最重要検討課題はテーマの設定である。テーマについては先にも述べたが、高専での発表テーマであれば、理系の内容がふさわしいのであろう。しかし、それでは「国語」の授業である意味がないし、評価もしづらい。そこで、1年生はフリーテーマ、2年生は課題テーマを設定することにした。1年生をフリーテーマとしたのは、まずプレゼンテーションに慣れることを第一の目標としたからである。また、この当時国語科では、1・2年生の国語Ⅰ・Ⅱを持ち上がりで同じ教員が担当していたので、慣れさせてから課題を与えるという方式がやりやすかったということもある。

初年度である平成16年度のデータがパソコンの入れ替えとともに消失してしまったので、平成17年度のデータより、学生達がどのようなテーマを選んでいるのか見てみよう。

平成17年度はメインテーマ「技術について」とし、これに沿った小テーマを考えさせた。

2年通信ネットワーク学科

- A班 戦艦大和の技術
- B班 携帯の機能
- C班 デジタル放送のNowHow
- D班 医療機器について
- E班 『鉄の処女』の製造法
- F班 携帯電話の通信技術について
- G班 CGの技術について
- H班 進化する携帯電話の技術とシステムについて

I班 原子力発電

2年電子工学科

- A班 鋳造の技術
- B班 Blue-ray Diskについて
- C班 現在の乗用車について
- D班 バーコードについて
- E班 HDDVDについて
- F班 超伝導物質について
- G班 地上デジタル
- H班 人工臓器について

2年電子制御工学科

- A班 光触媒の技術について
- B班 生活で活躍している機械
- C班 携帯電話について
- D班 エンジン
- E班 進化していく携帯電話
- F班 GPSについて
- G班 ロボットの歩行技術

2年情報工学科

- A班 CADについて～設計の歴史～
- B班 インターネットセキュリティについて
- C班 テレビの歴史と構造
- D班 日本の中小企業のすごい技術…世界で活躍している
- E班 ネットワークのしくみ
- F班 電気製品（テレビ、携帯電話etc）の進化について

平成18年度は1年生でフリーテーマとし、その学年の2年次、平成19年度はメインテーマを「敬語について」とした。17年度の「技術について」では「光触媒」や「CAD」など教員側が不案内なテーマも出てきた。そこで平成19年に文化審議会国語分科会答申をもとに作成された「敬語の指針」⁹⁾より、改正された敬語についてテーマを30題設定し、学生達に選ばせることにした。

30題のテーマのうち、全てのクラスに選ばれた

のは、

【13】自分のことを「僕」と呼んでいるのだが、「僕」と「わたし」はどのように使い分ければ良いのだろうか。

である。学生達にとってもっとも身近な素材だからであろうか。逆に、どこにも選ばれなかったものは場面の設定が「会社の上司」など、学生達にとってわかりにくい内容が多かったようである。

次に、21年度は新たな試みとして教科書²⁾の教材を使ってみた。教科書は高校用の検定教科書を使用しているが、時間数の問題で毎年現国の授業で扱えるのは4つ程度である。手つかずの教材がたくさんある現状を、何とかならないかと考えていて思いついたのである。

学生達に選ばせたのは以下の教材である・

- ①最初のペンギン
- ②ピカソの力強い「線」
- ③コンコルドの誤り
- ④未来世代への責任
- ⑤サッカーと資本主義
- ⑥前の駅でました
- ⑦聴くということ
- ⑧「私」消え、止まらぬ連鎖

レジメはA4用紙1枚で作成させている。通常は以下の内容を必須としているが、

- 1 発表目的（序論：問題の提示）
- 2 発表手順（本論：調査と分析）
- 3 結論（考察）

今回は教材をきちんと読んでいなければならないので、

- 1 選択教材の要旨
- 2 テーマ決定の理由・目的
- 3 発表手順
- 4 結論

以上のように作成指導した。

22年度の1年生フリーテーマは以下のようなものとなった。

1年5組

- A班 陰陽師
- B班 非致死性兵器の必要性和今
- C班 海の不思議
- D班 虹の原理
- E班 ガリガリ君について
- F班 もしドラえもんが現代にいたら
- G班 伊賀忍者・甲賀忍者
- H班 お金について

1年6組

- A班 株とは何か?
- B班 サッカーについて
- C班 空と雲
- D班 なぜ総理大臣はコロコロ変わるのか
- E班 地球温暖化について
- F班 コミュニケーション方法の進化
- G班 UMAについて

1年7組

- A班 ブラックホールについて
- B班 シャープペンシルの歴史と仕組み
- C班 アスリートの食事
- D班 ブルーレイ
- E班 坂本龍馬について
- F班 音楽の種類とそれぞれの特徴および歴史
- G班 なぜ、日本の総理大臣はすぐに交代するのか?
- H班 イヤホンについて

かなりバラエティに富んだ内容となっており、まとまりに欠ける印象を否めない。また、「プレゼンテーション演習」開始当時と違って、パワーポイントでのプレゼンテーションを中学校で経験した学生も増えてきており、国語科の授業担当が1・2年持ち上がりから学年固定制（富士原が1年生担当）に変わったこともあって、2・3年度からは1年生のフリーテーマを止めることにした。新しい課題は1年生でも問題を設定しやすいものでなければならない。そこで副教材として使用している国語便覧⁴⁾の「小論文必須テーマ」のキーワードから選ばせることにした。

社会福祉

- 夜警国家から福祉国家へ
- 高齢社会の到来
- 少子化の進行
- 豊かさとは何か

科学・情報

- 科学技術と人類の幸福
- バイオテクノロジー
- クローン
- 情報社会

医療・生命

- インフォームド・コンセント
- 安楽死と尊厳死
- 臓器移植
- 再生医療

ゲノム医療

バイオエシックス

環境

- 深刻化する地球環境問題
- 地球温暖化
- 地球環境問題への無関心

日本・国際化

- グローバリゼーションの波
- 文化相対主義
- エスノセントリズム
- 日本人の集団主義
- 現代のナショナリズム

これらには「問題点」「解決策」などの説明が盛り込まれているので、1年生でも容易に取り組むことができた。ただ、やや範囲が広すぎるので、24年度は「科学・情報」「日本・国際化」の中から選択させた。

3. まとめと展望

今回の論文では主にテーマについての説明に枚数を割いてしまったが、テーマ決めは重要な問題であるのでやむを得ないだろう。学生たちが実際にどのようなデータを作成したのか等については、また別の機会に報告したい。

最後に現時点で判明している問題についていくつか指摘しておきたい。

- ・中学校における「総合学習」との兼ね合い。
中学校での取り組み・方法を発展させるだけの意欲のない学生がいる。
- ・発表態度や取り組み姿勢。
班内で積極的に取り組む学生とそうでない者との差が生じている。
- ・データ制作のための設備。
データ作成のパソコン・パワーポイントソフトが全員分は整備されていない。

以上のような問題も今後クリアしていかなければならないと考えている。

□参考文献

- 1) 文化審議会国語分科会：敬語の指針，pp.76-77(2007)
- 2) 稲垣敬二他：高等学校 標準国語総合，第一学習社
- 3) 設定したテーマは以下のようなものである。ちなみに、学生達が選んだのは、【1】・【2】（3クラス）、【3】（2クラス）、【4】・【5】（3クラス）、【6】・【7】・【8】・【9】・【10】（3クラス）、

【11】・【13】（4クラス）・【15】・【18】（2クラス）、【19】・【22】・【23】・【24】・【25】・【30】（2クラス）である。

【1】「御利用される」「御説明される」のような形はよく使われていると思うし、自分も、例えば「先生もこの店をよく御利用されるんですか。」などと使ってきたのだが、ある人から、変な敬語だと指摘された。どこが変なのだろうか。

【2】駅のアナウンスで「御乗車できません。」と言っているが、この敬語の形は適切なのだろうか。

【3】「分かりにくい」や「読みやすい」といった言葉を敬語にしようと思い、「お分かりにくい」、「お読みやすい」と言ったら、変な敬語だと言われた。どう言えば良かったのだろうか。

【4】受付の人に、「担当者へ伺ってください。」と言われたが、客に対する言い方としては、何だか妙な感じがした。どこが変なのだろうか。

【5】「課長、そのファイルも会議室にお持ちしますか。」と尋ねたところ、「うん、よろしく頼むよ。」と言われてしまった。私は自分が持つていくつもりではなく、上司である課長が持つていくかどうかを尋ねたかったのだが、どう言えば良かったのだろうか。

【6】「お知らせ」として配布された文書に、「来週の日曜日に消防設備等の点検に伺いますが、御在宅する必要はありません。」と書いてあった。どうも気になる言い方なのだが、どこが問題なのだろうか。

【7】加藤先生に向かって、もう一人の恩師である田中先生のことを話題にして「明日は、田中先生のところに参ります。」と言った。田中先生を十分に高める気持ちで言ったのだが、これで良かったのだろうか。

【8】「御持参ください」、「お申し出ください」、「お申し込みください」などといった言い方には、「参る」や「申す」など、本来自分に使う敬語が入っているのでもいつも気になっている。これらは、適切な使い方なのだろうか。

【9】社長から、課長である私が、部下に企画をもっと積極的に出せと指示しておくように言われた。「はい、そのように申し伝えておきます。」と返事をしたのだが、これでは部下を高めることになってしまうのだろうか。

【10】自分のことに「お」や「御」を付けてはいけないと習ったような気がするが、「お待ちしております」や「御説明をしたいのですが」などと言うときに、自分の動作なのに、「お」や「御」を付けるのは、おかしくないのだろうか。これは、どう考えれば良いのだろうか。

【11】いつも、「御利用いただきましてありがとうございます。」と言ったり、書いたりしているのだが、「御利用くださいませ」の方が良いのだろうか。どちらが適切なのだろうか。

【12】「させていただく」を余り使わない方が良いと聞いたが、実際には、見聞きすることが多い。また、自分でも「それでは、発表させていただきます。」などと言ってしまいが、どう考えれば良いのだろうか。

【13】自分のことを「僕」と呼んでいるのだが、「僕」と「わたし」はどのように使い分ければ良いのだろうか。

【14】会議の司会をしている時に、1年先輩の同僚に、「あなたはどう考えますか。」と言ったのだが、「あなた」は丁寧な言葉だとは思いつつ、ちょっと違和感を覚えた。「あなた」という呼び方については、どう考えれば良いのだろうか。

【15】手紙のあて名書きで気になる点がある。学校の教師に出す手紙のあて名は「〇〇様」で良いのだろうか。また、「〇〇中学校山田一郎先生御中」と書いたが、これで良いのだろうか。

【16】自分の家族について改まった場面で話すときには、「父・母」と呼ばなければいけないのだろうか。

【17】保護者からの電話で、同僚の田中教諭の不在を伝えるときに、「田中先生はおりません。」と伝えたが、それで良かったのだろうか。それとも「田中はおりません。」と伝えた方が良かったのだろうか。

【18】自分が日常は敬語を使って話している田中部長のことを、取引先の社員に話すときにウチ扱いにすることは分かるのだが、「田中」と呼び捨てにするのはどうも抵抗がある。特に田中部長が同席しているときに、「田中」とは言いにくいのだが、どう考えれば良いのだろうか。

【19】社内の忘年会で司会をすることになった。最初に、社長からのあいさつがあるのだが、その時、「社長からごあいさつを頂きます。」と「社長からごあいさつを申し上げます。」のどちらを言えば良いのだろうか。また、社外の人が多い会で司会をする ことになった場合は、どうすれば良いのだろうか。

【20】係長である自分が課長と一緒に部長室に行き、3人で話した。その時に、部長に対して「課長は、このようにおっしゃっていました。」と言ったところ、後で課長に「あのような場面では、わたしには敬語を使わなくていいよ。」と指摘を受けた。課長も部長も上司なので、どちらにも敬語を使った方が良かったのだが、どう考えれば良いのだろうか。

【21】時間外に仕事を教えてくれた上司に「どうも御

苦勞様でした。」と言ったら、「御苦勞様はないだろう。」と笑われてしまった。それで、書類作成に追われた上司が帰る時には「御苦勞様」以外の言い方を考えてみたのだが、適切な表現が浮かばず、そのままになってしまった。そういう気持ちを表したい場合には、どうすれば良いのだろうか。

【22】講演会の講師に対して、終了後の懇親会で会った時に、「すてきなネクタイですね。」と褒めてもいいのだろうか。また、仕事を分かりやすく教えてくれた上司に対して、「課長は教え方が上手だ」ということを伝えたいのだが、どう表現すれば良いのだろうか。

【23】部長から「いい仕事をしたね。」と褒められたので、思わず「とんでもございません。」と言ったのだが、この表現は使わない方が良くとどこかで聞いたことを思い出した。「とんでもございません」の何が問題なのだろうか。

【24】英語に堪能な部長がフランス語もできるかどうかを尋ねたいのだが、「部長は、フランス語もお話しになれるんですか。」や「部長は、フランス語もお出来るんですか。」と言うのは失礼なように思う。また、コーヒーが飲みたいかどうかを課長に尋ねたいとき、「課長もお飲みになりたいですか。」は変な表現であるように感じる。「課長は、夏休みにはどこへいらっしゃるつもりですか。」も、敬語の間違ひはないと思うのだが、何だか変だ。これらの表現は何が問題なのだろうか。

【25】同僚に仕事を頼む時に、自分が責任者ではなかったが、「この仕事をさせていただきます。」と言ったら、きつい言い方だと言われてしまった。敬語を使っているから良いと思っていたのだが、どう言えば良かったのだろうか。

【26】同僚から突然「これ、お願いします。」と書類を置いていかれた時、何だか失礼な頼み方だと感じた。何が問題だったのだろうか。

【27】「それ、取ってもらってもいい(ですか)。」「こちらの書類に書いていただいてもよろしいですか。」というような言い方をよく耳にする。「取ってちょうだい。」や「取ってください。」、「書いていただけますか。」に比べると、何だか回りくどい言い方に聞こえてしまう。こうした表現については、どう考えれば良いのだろうか。

【28】レストランで働いているのだが、いつも「御注文の品はおそろいになりましたでしょうか。」と言いながら、何だか変な表現だと思う。なぜ変なのだろうか。どう言えば良いのだろうか。

【29】東京の大学に通う地方出身の大学生だが、先日、クラスのコンパのことで、担任の先生に「先生も行かれますか。」と尋ねたのだが、敬語の使い方として、これで良かったのだろうか。

【30】関西に行くと、「どこから来たのか」という意味で、「どちらから来はったんですか。」と聞かれることがある。この「来はった」にはどんな意味が込められているのだろうか。

- 4) 稲賀敬二他：新訂総合国語便覧，pp.458-467，第一学習社